

3) 消化器内科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科スタッフ（講師以上）

高橋 信一（教授、診療科長）
森 秀明（准教授、外来医長）
川村 直弘（講師、病棟医長）
徳永 健吾（講師、医局長）

2) 常勤医師・非常勤医師

常勤医師数：36名
非常勤医師数：37名（専攻医24名、出向中レジデント6名、客員教授・非常勤講師7名）

3) 指導医数、専門医・認定医数（常勤医における人数）

・指導医

日本内科学会指導医：10名
日本消化器病学会指導医：3名
日本消化器内視鏡学会指導医：8名
日本肝臓学会指導医：2名
日本超音波学会指導医：2名

・専門医

日本内科学会総合内科専門医：3名
日本消化器病学会専門医：14名
日本消化器内視鏡学会専門医：12名
日本超音波学会専門医：2名
日本肝臓学会専門医：9名
日本消化管学会暫定専門医：7名

・認定医

日本内科学会認定医：18名
日本ヘリコバクター学会認定医：12名
日本がん治療認定医：3名
日本カプセル内視鏡学会認定医：3名
日本病院会認定人間ドック認定指定医：1名

4) 外来診療の実績

・専門外来の種類

月曜日から土曜日まで、上部消化管・下部消化管疾患、小腸疾患、肝・胆道疾患、膵疾患などを専門とする担当医がそれぞれ外来診療を行っており、あらゆる消化器病に対処できる診療体制をとっている。

・外来患者総数：32,757例

5) 入院診療の実績

- ・患者総数 24,367例
- ・死亡患者数 82例
- ・剖検数 2例
- ・平均在院日数 15.9日
- ・稼働率 93.8% (3-7病棟)
- ・主要疾患患者数

病名	人数
肝細胞癌	129
肝硬変	167
B型慢性肝炎	10
C型慢性肝炎	30
自己免疫性肝炎	7
原発性胆汁性肝硬変	20
原発性硬化性胆管炎	5
急性肝炎	17
劇症肝炎	1
薬物性肝障害	2
肝膿瘍	29
胃潰瘍	247
十二指腸潰瘍	31
胆嚢結石	61
総胆管結石	136
食道癌	42
胃癌	36
膵臓癌	82
胆嚢癌	7
胆管癌	94
膵管内乳頭粘液性腫瘍	4
急性膵炎	54
慢性膵炎	13
大腸癌	20
イレウス	94
大腸ポリープ	122
潰瘍性大腸炎	34
クローン病	8
虚血性大腸炎	9
大腸憩室出血	47
急性腸炎	13
S状結腸軸捻転	5
上部消化管出血	45
下部消化管出血	52

2. 先進的医療への取り組み

一般的消化器疾患診療の他、以下の先進的医療を行っている。

- ・ 上部消化管疾患
食道静脈瘤・胃静脈瘤に対する緊急止血、同出血予防目的の内視鏡的治療、BRTOなどの併用による集学的治療
各種胃・十二指腸疾患に対するHelicobacter pyloriの診断と除菌療法
食道・胃腫瘍に対する内視鏡的治療（EMR、ESD）
特殊小腸鏡、カプセル内視鏡による小腸疾患の診断と治療
超音波内視鏡下穿刺生検による胃粘膜下腫瘍の診断
- ・ 下部消化管疾患
大腸腫瘍に対する内視鏡的治療（EMR）
潰瘍性大腸炎・クローン病に対する集学的治療（血球除去療法、動注療法など）
- ・ 肝疾患
肝臓に対する集学的治療（PEI、RFA、TACEなど）
慢性肝疾患に対する栄養療法
C型・B型慢性肝疾患に対するインターフェロン療法
劇症肝炎に対する集学的治療
- ・ 胆道・膵疾患
閉塞性黄疸に対する内視鏡的治療あるいは超音波下ドレナージ療法
劇症膵炎に対する集学的治療
超音波内視鏡下穿刺生検による胆道・膵腫瘍の診断
超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ術

3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数

- ・ 早期胃がん、胃腺腫に対する内視鏡的治療：44例
- ・ 食道静脈瘤に対する内視鏡的治療：27例
- ・ 内視鏡的ステント挿入術：消化管ステント5例、胆道・膵管ステント243例
- ・ 食道狭窄拡張：41例
- ・ 上部消化管出血に対する内視鏡治療：47例
- ・ 内視鏡的乳頭切開術：178例
- ・ 総胆管結石碎石術：105例
- ・ 大腸腫瘍に対する内視鏡的治療：583例

4. 地域への貢献

病診連携を基本に、地域医師会や病院勤務医あるいは実地医家の先生方との密接な関係を構築すべく、多摩地区を中心に各種講演会、研究会などを開催している。すなわち多摩消化器病研究会（1983年設立）、多摩消化器病シンポジウム、三多摩肝臓懇話会など6つの研究会を通し、地域医師へ最新の診断・治療法を提供し、またその問題点を明らかにし、共通の認識を元に病診連携を行っている。